

科学技術政策担当大臣等政務三役と  
総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成28年11月17日(木) 8:59～9:13
- 場 所 中央合同庁舎第8号館 6階623会議室
- 出席者 鶴保内閣府特命担当大臣(科学技術政策)、  
石原内閣府副大臣、豊田内閣府大臣政務官  
久間議員、原山議員、上山議員、大西議員、橋本議員  
武川内閣府審議官、山脇政策統括官、進藤大臣官房審議官、  
生川大臣官房審議官、松本大臣官房審議官、柳大臣官房審議官、  
佐藤参事官、水野参事官

[議事概要]

- 原山議員 科学技術政策担当大臣と政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合を開催させていただきます。

本日は、鶴保大臣、石原副大臣、豊田政務官の御出席を頂いております。

本日の議題は1件です。平成29年度科学技術関係予算の編成に向けてということで、公開で開催したいと思います。よろしいでしょうか。

では、プレスお願い致します。

(プレス入室)

議題 平成29年度科学技術関係予算の編成について

- 原山議員 平成29年度科学技術関係予算の編成に向けてということで、水野参事官から説明をお願い致します。

<水野参事官より説明>

○原山議員 有難うございました。これは有識者ペーパーという形で準備させていただきました。本日、これをもって議論をさせていただいて、ファイナライズしたいと思っております。御意見、コメントなど、最終的に何か一言ございましたらお願い致します。

○上山議員 この有識者ペーパーに関する、私自身の基本的な考え方としては、対GDP比1%、すなわち26兆円を飽くまで確保するというを前提とした上で、3.5兆円の政府投資というのは飽くまで呼び水であって、それは日本全体の研究開発を活発化させることに繋がらないといけないという気持ちを持っております。それはまた有識者議員の方々とずっと議論させていただきましたので、この全体としての日本の研究開発を活発化させることが最終的にGDP600兆円につながるというような気持ちを持って、ここに書かせていただいております。そのことをあえて発言させていただき、この有識者ペーパーの中身と御判断いただければと思います。

○大西議員 今のお話しにも関係しますが、民間はリーマン・ショック以降、少し下がってきたのがやや回復しているというグラフになっていたと思うんですね。ですから、ここに書く必要はないと思いますが、そうした官民を合わせた研究開発投資の動向などについては、我々としてしっかり整理しておく必要があると思います。

その上で、6番目のパラグラフに数値が入っている訳です。今、第5期基本計画の実質的な初年度というのが平成29年度ということがありましたが、実際は平成28年度から始まって5年間がスタートしているので、3.5兆円プラス、補正予算はどの程度なのか少しつまびらかではありませんが、それを加えたものは、28年度に期待されている水準より少し低いだろうと。だから、これで28年度を含めて5年間で26兆円達成するというのは、一層ハードルが高くなっているという気がします。やはりそれを踏まえた取組というのが必要だろうと思います。ここに書いてあることは間違いではないですが、1年前にも書くことのできた文章だとも言えるので、そういう意味では、我々自身の取組み方としてアップデートしていく必要があります。文言については反対しません。

○久間議員 もう一度思い出していただきたいのですが、Society 5.0は第5期基本計画の柱として産業界と一緒に作ったものであり、これで安倍総理の目指す経済再生、経済成長を実現しようという事です。経団連も一昨日に、Society 5.0実現に向け

た政府研究開発投資の拡充を求める提言を公表しています。これは、経済界も本気で取り組んでいくという意思表示です。

一方、経済社会・科学技術イノベーション活性化委員会では、Society 5.0を実現する骨格として、二本立てのSIPを提案しています。私はこれも非常に良い提案と思います。ですから、このタイミングで、こうした有識者議員ペーパーを我々からも総理に説明することが必須と思います。

○原山議員 有難うございました。まさに我々有識者議員と一緒に作ったペーパーです。これは有識者議員だけではなく、今おっしゃったように、経団連や経済界の方たちと共にというスタンスでやっているのと、それから、上山議員がおっしゃったように、政府がお金を付けるということは、政府だけでひとり相撲するのではなく、これが呼び水になるということで、今の時点でも波及効果についても認識しているというスタンスです。

これは我々有識者議員からの発信ですが、1人で歩く訳ではなく、様々な立場の組織の方たちからも同じ時期に発信していくものです。その中で一緒に発信していくという重みのあるペーパーであると認識しております。また、これはスターティングポイントであって、これを本当に具体的なアクションに結び付けていくのが我々のミッションだと思っております。

本日は、こうした形でもってペーパーをまとめるということで、御了承いただければと思います。如何でしょうか。

○久間議員 こうした予算拡充の要求は、これまで何度もやってきましたが、実現されませんでした。今回は我々ばかりではなく経済界、自民党も一体になって、予算を拡充する努力が必要と思います。

○原山議員 本日、御欠席の方たちとも調整済みですので、これをもってファイナライズさせていただきます。有難うございました。

○原山議員 ここで鶴保大臣からお一言頂ければと思います。

○鶴保大臣 御議論、取りまとめ有難うございました。久間議員からも御指摘ございました通

り、こうした提言は何度もしてきたという御発言もございました。私たちもその言葉をしっかり重く受け止めて、予算取りについて、これは政治の世界ですから、責任を持ってやっつけていかなくてはいけないと思います。

あえて申し上げるまでもないことではありますが、政府も今、アベノミクスの成否が最も問われているときでございます。私たちの政権が維持されるかどうかの瀬戸際にあるという危機感は、これは与党の議員であれば誰も持っておりますし、それを政府一体となって共有できれば、恐らくは今まで通りのものにはならないと私は思います。気迫と気合、思いを込めてこれから努力をしていきたいと思えます。

今、担当部局にも努力をしていただいて、民間側からの投資についても科学技術関係の予算、呼び水と言われる、その水の部分をどうやって引き出してくるかについての工夫もしていただいているところでもありますから、まずは隗より始めよ、私たちの方もこの政府予算についてしっかり受けて頑張りたいと思えますので、御協力のほどよろしくお願いを致します。

○原山議員 有難うございました。これをもちまして本日の会議を終了させていただきます。

以上